

事業拡大を支えるIT②

兵庫県・衣料用下着その他の企画製造業 アンドルの場合

2008年IT経営実践認定企業

創造的なデザイン業務は効率化できる？
ノウハウを財産にし、人海戦術から脱却

女性用インナーウェア（下着、肌着）は一筋縄ではいかない商品だ。色・柄、デザインセンスが優れているのは当たり前、その上で体を美しく見せる補正機能を備え「着けたらやせて見える」のが理想なのだそう。

そのためブラジャー一つとっても、製造パーツは細分化され、数ミリ単位でのデザイン企画が求められる。ノウハウがないとなかなか作れるものではない。

兵庫県西宮市のアンドルは、こうした高品質インナーウェアを企画製造している新興企業である。岸村裕子社長が9年前にワンルームマンションの1室から始めた事業はOEM提供先の専門店・通信販売会社から信頼を得て、従業員10名の企業へと成長した。シーズンごとに新製品の企画デザインから生産管理（製造は中国の協力



代表取締役社長 岸村 裕子氏（左）
取締役 企画部 部長 澤田 真季氏（右）

工場へ発注）までを一貫して行うのが特徴である。

製造のスピード化へ
ボトルネックはどこ？

最近では商品の短サイクル化が進み、年2回だった通販の新製品案内が年4〜6回に増加。一つの

カテゴリで年間に製作する商品は数百種類に及ぶようになり、製造工程をスムーズにこなす体制づくりが必要になってきた。

製造のプロセスは、デザイナーによるデザイン画の作成、それらを型紙に落とす技術処理、資材パーツの決定と手配、製造工場への縫製指示書作成と続く。

このうち、デザインの部分は人の創造力を活かす「アナログ的」な工程だ。デザイナーが描くデザイン画は手書きで、書き方も人それぞれ。製造量が増えるにつれ、この「アナログ処理」が後工程の円滑な進行を妨げるようになってきた。

アンドル取締役の澤田真季氏はその様子を次のように説明する。「製造工場からは、デザイナーによって表現や用語にばらつきがある指示書に、その都度問い合わせが寄せられました。社内でも伝達



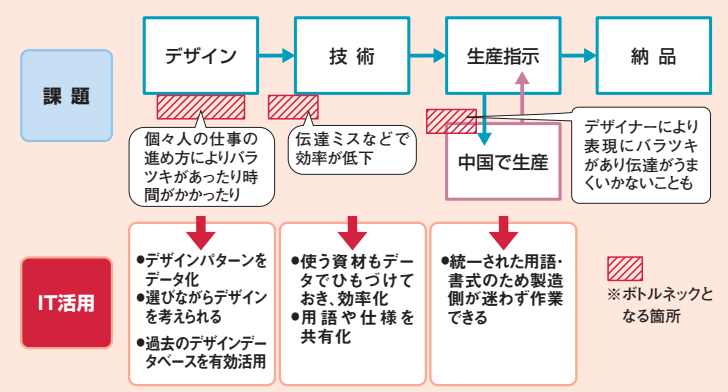
ミス誘発し、業務の効率を下げる原因になっていました。また、そもそも手書きのデザイン画は次の仕事に活かしくく、会社の共有財産にできません」

デザイナーごとの用語や表現の違いを統一し、デザイン業務をスピード化する必要に迫られた。「統一した世界の中で仕事を動かせばバトンタッチのミスも減るはず。デザイン画を起こすところから生産指示までを一気通貫するシステムを持ちたい」

会社概要
アンドル株式会社

兵庫県西宮市六港寺町12-10
サングリーンビル3F
設立：2000年
従業員数：10名
事業内容：衣料用下着および関連商品の企画・開発。通信販売会社、専門店へのOEM提供を行っている。
URL：http://www.andor-inc.com/

アンドルの製造工程の概略とIT活用



そう考えた岸村社長は早速動き出し、資金の相談に尼崎信用金庫を訪れる。ここでITコーディネーターの活用を勧められ、森下勉氏のサポートを受けることにした。森下氏は、「創造的な業務に携わる方々が本業に専念するためのボトルネックの解消がテーマと捉えました」と振り返る。社内プロジェクトチームを作り、森下氏が内容を整理する形でシステム仕様を固めていった。

本来業務に専念でき
売上急増を導いた

一気通貫システムは2007年

サポーター紹介



ITコーディネーター
森下 勉氏
有限会社 ツトム経営研究所

関西地区を中心に活動するITコーディネーター。企業支援実績が豊富で、2006年には関西IT経営応援隊の「ベストITサポーター賞」を受賞している。

衣料関係のコンサルティングは初めてだったが、工程の流れを理解しボトルネックの解消を目指したシステム構築プロジェクトをバックアップ。本システムは「平成18年度中小企業戦略的情報化事業」にも採択され補助金が支給された。

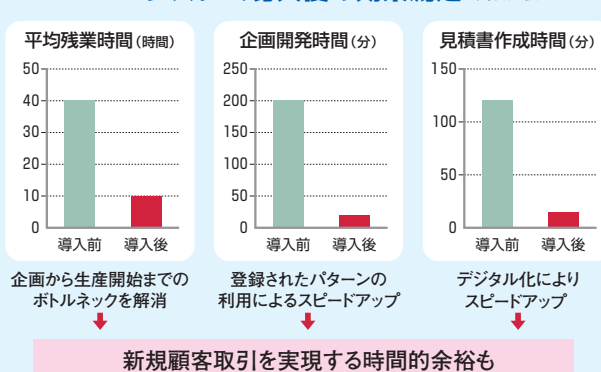
岸村社長は、「ミーティングを持つとその場で書類を作成されるのでロスタイムがゼロ。すぐ次の課題に移れ、進行の滞りがありませんでした」と振り返る。また澤田氏は「社内にいるとどうしても固定観念を持ってしまいますが、外部の方から意見をいただくと刺激を受けます」と第三者視点の有効性を指摘している。

春に完成。忙しい業務を縫って従業員も一丸となって協力し、検討を重ねたり基本データを入力したりなど作業を進めた。費用は80万円ほどだった。

デザイン工程では、商品ごとにデザインの基本パターンを登録しておき、それらを組み合わせるデザイン画を作成できるようにした。例えばブラジャーであれば、カップ、土台（下の部分）、ストラップ、裏仕様の4パートに分け、デザイナーは各パートからデザインパターンを選び色や装飾を決めていく。

さらにデザインパターンによって使用する資材が紐付けられており、データは資材発注、さらに生産指示書へとリレーされていく。稼働後の効果を澤田氏は「工場からの問い合わせは減少しました。伝達ミスが減り、残業時間が飛躍的に少なくなりました」とにこやかに語る。デザイン業務のスピードアップもなされ、熟練していないデザイナーでも難易度の高いデザインを35分で完成させたそう。社内には時間的なゆとりが生まれ

システム導入後の効果測定 資料提供：アンドル



たことで、新規取引先の開拓に成功。2008年度は前年の2倍近い売上を示した。

日本ではメーカーの寡占化も進み成熟市場になりつつある女性用インナーウェアだが、岸村社長は、東南アジアの市場拡大に注目しているという。

「2015年のあるべき姿を描き経営計画を立てていますが、それはアジアを視野に入れたものになっています」

次のフェーズでは海外とのネットワーク化も焦点になりそう。